



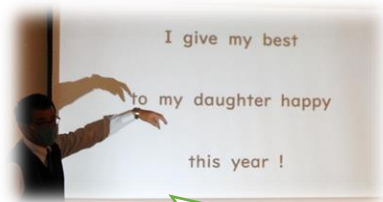
# 飛騨っ子

令和3年1月14日発行 NO12  
飛騨県事務所 振興防災課 振興防災係  
家庭教育推進専門職：水口 悟  
TEL: 0577-33-1111 (内線 235)  
E-mail: mizuguchi-satoru@pref.gifu.lg.jp



## 広がれ 家族みんなの 笑顔!

### I 保護者・施設職員みなさんと、ともに高まる家庭教育学級 その2 (講演会型 + 在宅取組型 自立心)



<わが子への Xmas メッセージ>

I give my very best to become my daughter happy this year! (外国籍の方の感想から)

○テーマ：金銭教育 (シリーズ) ~実はお金じゃないかも~ ○期 日：12月16日 (水)

○会 場：飛騨慈光会 児童福祉施設 ○対象者：保護者および施設職員

昨年春より高山市内の児童福祉施設で始まったシリーズ金銭教育は、12月の第5回で終了いたしました。家庭教育学級のシリーズ化も効果的だと感じました。途中から参加された外国籍の方の A4 用紙に上からびっしりと書かれた英文の感想に感動しました。その文章の中にとっても素敵な一文がありました。みなさん! 何と訳します? 子どもを持つ親の気持ちは、世界中変わらない!! すばらしい。シリーズ金銭教育の出口は、わが子への Xmas メッセージを書くという形につながり、終えることができました。

‘今朝、宿直明けの職員より『各部屋から子どもたちの歓声が聞こえてきた』という報告がありました。お母さんたちそれぞれが工夫を凝らしたサンタクロスからのプレゼントを贈られたようです。子どもたちの将来、自分たち家族の将来・・・、金銭教育を通して今までとは少し違うイメージを描きながら Xmas を迎えられたお母さん方がいらしたことをとても嬉しく思います。’ (12/25 施設長メールより)

家庭教育・・・教科書があるわけではない学びです。毎日の子育てを通して、小さな親学び(見つめ・気付き)を積み重ねていくことが原点です。学校教育にも通じるところがあります。

新年あけましておめでとうございます。

岐阜県では、新しい年の出発にあたる1月を「家庭の日」普及実践強調月間としています。

#### おしらせ

県 PTA 機関誌「わが子の歩み」1月号 (初春号) の「みんなで家庭教育」を是非ともご覧ください。

P17・18 ○子どもの心と体の健康 ○「金銭教育」で教えること



## 2 飛騨市子育てサポーター養成講座（講演会型 命の大切さ）



○期 日：12月3日（木） ○会 場：ハートピア古川

○テーマ：赤ちゃん防災について

○講 師：長田直子 助産師（赤ちゃん防災リーダーの会）

飛騨市では、市内における子育て援助者を養成することを目的に平成17年度から「子育てサポーター養成講座」を開催しています。講師を務められた赤ちゃん防災リーダーの会は、令和2年8月に立ち上がったばかりです。現在、医療職の資格を有する8名（助産師・看護師）で活動をしています。

最初に、赤ちゃんを守るために作成した「防災ハンドブック（飛騨市古川町保健センター）」をもとにした講話が行われました。続いて、妊婦さんや生後まもない赤ちゃんを抱いて必死に避難してきた方のロールプレイを見て、どう寄り添えばよいのか、協力の在り方などについてワークショップをしました。トリアージ（医療・治療の優先順位）では、妊産婦さんは最優先されるというお話です。積極的に声をかけ寄り添う勇気があるでしょうか。一瞬、戸惑います。ワークショップでは、避難所に避難した妊産婦は声をかけてもらったことや一緒に付き添ってもらったこと、医師や助産師などの存在を呼び掛けていただいたことなどによって安心できたということが話題となりました。緊急時につながる日常的な人と人とのつながりの大切さを改めて感じます。また、コロナ禍にも通じる人権感覚を見つめる学びとなりました。

赤ちゃん防災リーダーからは「行政の方々の理解が嬉しい」、市からは「行政でできないことを地域で活動している専門職にやっていただいている」との双方の言葉より、市行政と地域の人材との協働が、赤ちゃん防災リーダーの活動につながっていることが分かります。「あたたかい空気感がわがまちのよさ」「少子高齢化の中、他地域から移住してきた方々が孤立しないようにしたい」…赤ちゃん防災リーダーの方々の言葉です。

## 3 飛騨市立古川小学校（講演会型 思いやり）



○日 時：令和2年11月25日 授業参観後

○テーマ：子育てのヒントにつながる発達支援の知識

○講 師：山口清明氏（NPO 法人はびりす代表）

この講演会は、PTA が実施したアンケートで最も希望が多かった「発達支援」をテーマに開催され、講師には子どもの発達支援に取り組むNPO 法人はびりすの山口代表をお招きしました。はびりすは一昨年前から飛騨市の児童を中心に発達支援に携わりながら、令和2年7月飛騨市内に発達支援事業所「HABILIS-HIDA（はびりすひだ）」を開所されました。発達支援と聞くと、発達障がいをはじめとした様々な「障がい」を思い浮かべるかもしれませんが、子どもをもつ親としては、わが子が「発達障がい」と診断されれば「発達障がいの子」といった偏った見方になってしまうかも知れません。しかし、この講演でははびりすが取り組む哲学「すべての人には Gifft がある」のもと子どもたちの凸凹（障がいなど）も Gifft と捉えることで、子どもを豊かに育てる大切さを講演いただきました。また、山口先生がこれまで取り組んできた事例をもとに、子どもたちの特徴や捉え方、子どもたちが秘める力や可能性などについて深く学ぶことができました。

参加した保護者からは、「子どもの行動や発言の受け取り方次第で対応が変わっていくことに気付かされた」「小さい頃の子どもの行動が腑に落ちた」「受け止める側の視点を変える難しさを感じた」といった感想が寄せられました。これからの子育てのヒントになるとてもためになる講演会でした。（飛騨市生涯学習課 出嶋）